



9月号

# 園長だより

H28. 9. 5  
新渡戸文化子ども園

## 「努力」と「アウトプット」

夏休みを終え、それぞれの成長が大きくみられる二学期の始業式。短時間保育の子ども達は、お家の方と、そして長時間保育の子ども達は園の縦割り保育、異年齢のお友達や先生と過ごすことで、大きく成長した姿が見られることでしょう。

今年の夏は四年に一度のリオオリンピックでしたね。子ども達の目にも選手の皆さんが、がんばっている姿が目に入ったのではないのでしょうか。

今年は、逆転での金メダルが多かったというニュースを目にしました。私も観戦をしていて、「これは銀メダルだろうな」と、男子体操団体や、女子バドミントンダブルス、そして女子レスリング等、つい弱気に応援したりしていました。ところが、技術にも勝る精神力でしっかりと実力を発揮し、最後の五秒で逆転をしたり、点差があったにもかかわらず、追いついて最後には逆転という、勇気をいただける結果でした。それは、何物でもない普段からの「努力」があったからこそなんだろうと思いました。最後まであきらめない気持ちをあの場面で持つことができるのは積み重ねた「努力」があってこそなのだと思えます。

困難に出会った時、自分ではこれはもう無理と思った時、それを乗り越えられる強い心と、あきらめない粘り強さを持つため、何も問題のない、平常の時にこそコツコツと努力をしなくてはならないと考えさせられます。そして、子ども達にもそのような心が育ってほしいと、平常の保育の中で細かな努力をして伝えていきたいと思えます。

さて、困難に出会った時、問題が起こった時、その解決方法に「努力」以外にもたくさん方法があると思えます。まず、文章化し「アウトプット」時には感情をネットやSNSだけでなくリアルに「アウトプット」想像＝イメージし「アウトプット」そしてオリンピック選手のように「努力」を「アウトプット」子ども達にとっては「アウトプット」は問題が起きた時に解決するための大切な経験です。

園では特にお友達同士で気持ちがお互いにそぐわない時に、この「アウトプット」の経験を先生方の言葉がけで行っています。例えば、「まぜてと言ったのに、まぜてあげないと言われたらどんな気持ちになるかな？嬉しいですか？楽しいですか？悲しいですか？いやですか？」と、具体的に想像＝イメージの言葉を投げかけます。すると、年齢が低ければ「いや」年齢が高いと「悲しい」と言います。そんなふうに子が「アウトプット」できるように導いていきます。

更に、頭で考えたこと、自分が置かれている困難、問題点をきちんと発言する「アウトプット」は、ハラスメント等言われている難しい現代においては一番大切です。社会に出ると、自己管理、自己責任においてはとても重要で、自分一人で抱え、「アウトプット」せずに、自分の管理も他人任せでは何事も成し遂げられません。そのためにも、子ども達には、対面で多くの発言ができるように促し、発言したことを認める事を行っています。いろいろな環境で発言を繰り返す「アウトプット」をすることにより、内弁慶や外弁慶もなくなっていくと思います。社会で真に活躍できる大人になってほしい。

大人にとりましたら、上記の事は意外とシンプルで当たり前のように思います。そしてそれらを磨くことを忘れがちです。しかし、根本的な事を磨くことによって土台が出来上がり、夢を持ちそれらにチャレンジできる力が育っていきます。

新渡戸文化子ども園の目指す子ども像「真っ直ぐに夢を見る子」となるよう、子の「アウトプット」の態度が身につくような保育を二学期には行っていきたいと思えます。

